

臨床画像診断学特論（櫻井 孝）

Advanced Course of Clinical Imaging Diagnosis (Takashi Sakurai)

キーワード

- ①画像検査技術
- ②総合画像検査
- ③画像診断学
- ④非破壊検査
- ⑤画像工学

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,③,④,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④,⑤

授業概要

今日の医療を支える総合画像検査について理解し、実践できるようになるため、各種検査法の撮影原理を十分理解したうえで、疾患の特徴に応じた正しい検査を選択するために必要な知識について学修する。また、学修した知識を活用して実際の検査や実験を実践できるようになるための総合画像検査に関する演習を実施する。さらに、画像診断能力を向上し、トランスレショナルリサーチを展開するために必要な基本的能力を身に付けるため、読影レポート等の作成等を通じた体験的授業を展開する。

授業科目の学修目標

本特論では、医療における診断の重要性、特に画像検査の有用性について理解し、各種検査法の基本的原理や有用性・リスクに関する知識を身に付け、症例に応じた正しい検査法を選択し、実践するための画像診断学に必要な知識・態度・技能を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 画像検査法の技術的原理と取り扱いに関する特論 8コマ 香西雄介
各種画像検査の検査技術に関する物理的・工学的原理と実際の操作法等について教授する。
- ② 症例に応じた各種画像検査法の選択に関する特論 6コマ 香西雄介
画像検査の選択に必要な各種検査法の適応とリスク・ベネフィットについて教授する。
- ③ 総合的画像診断に関する特論 8コマ 泉雅浩
各種画像モダリティから得られる診療情報を取捨選択して統合する総合画像診断について教授する。
- ④ 画像診断報告書作成に関する特論 8コマ 櫻井孝
画像診断医として実践的な能力を身に付けるための画像診断報告書作成法について教授する。

教科書および参考書

歯科診療における画像診断アトラス、医歯薬出版株式会社、日本歯科放射線学会編

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

各種画像検査は、特定の生体の変化を視覚化するために開発されてきた。したがって、疾患の特性を理解した上で検査法を選択し、何が視覚されているかを理解して診断を行うことが必須である。この点授業を受講する前に教科書や関連書籍を熟読し、理論を熟知した上で特論に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 画像検査の原理を理解し、各種モダリティの適切な取り扱いができる。
- ② 症例に応じた画像検査法の選択に関する理論を理解し実践することができる。
- ③ 総合的画像診断の理論を理解し実践することができる。
- ④ 画像診断医としての責任を果たし得る画像診断報告書を作成することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	20%	10%	20%	0%

評価の要点

- ・レポートは、臨床現場で遭遇する症例に対する報告書の作成能力により評価する。随時50%
- ・成果発表は、授業計画④で作成した画像診断報告書から症例発表を行い評価する。1回20%
- ・ポートフォリオは、レポートの記載充実度について評価する。10%
- ・口頭試問は、授業計画の4項目に関する知識の理解度を総合的に判定する。10%×2回=20%

理想的な達成レベルの目安

臨床画像診断学特論の理想的な達成レベルは70%以上とする。